

# 平成22年度 猪名川町・中学校 学習到達度調査の結果について

猪名川町教育委員会学校教育課

## ■調査目的

- 猪名川町内の中学校生徒の学習状況を調査し、領域、観点、基礎・活用ごとにその実態を分析することにより、学習指導上の問題点および改善点を明らかにする。

## ■調査内容

- 調査の目的に基づき、学習指導要領に定める内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当なものについて学力調査を実施した。

## ■調査対象

- 町内の公立中学校第2学年の生徒
- 調査対象教科は、国語・数学・英語

## ■調査日

- 平成22年4月20日（火）

## ■調査結果

【中学校の調査結果】

町内全体

		正答率（％）		
		期待正答率	全国平均	調査結果（町）
中学校 第2学年	国語	71.1	70.2	73.8
	数学	64.6	60.1	68.1
	英語[B]	71.4	73.5	78.7

## ■ 中学校第2学年【国語】

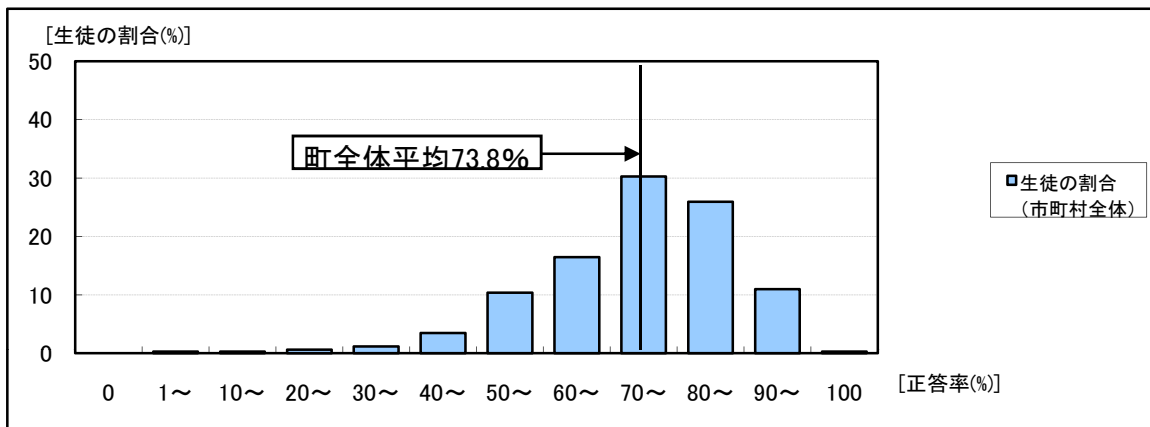
### (1) 国語の正答率

期待正答率	町全体
71.1%	73.8%

\* 中2国語の町全体の正答率は73.8%で、期待正答率を2.7ポイント上回っている。

町内全体

正答率	0	1～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～	100
生徒の割合 (市町村全体)	0.0	0.3	0.3	0.6	1.2	3.5	10.4	16.4	30.3	25.9	11.0	0.3

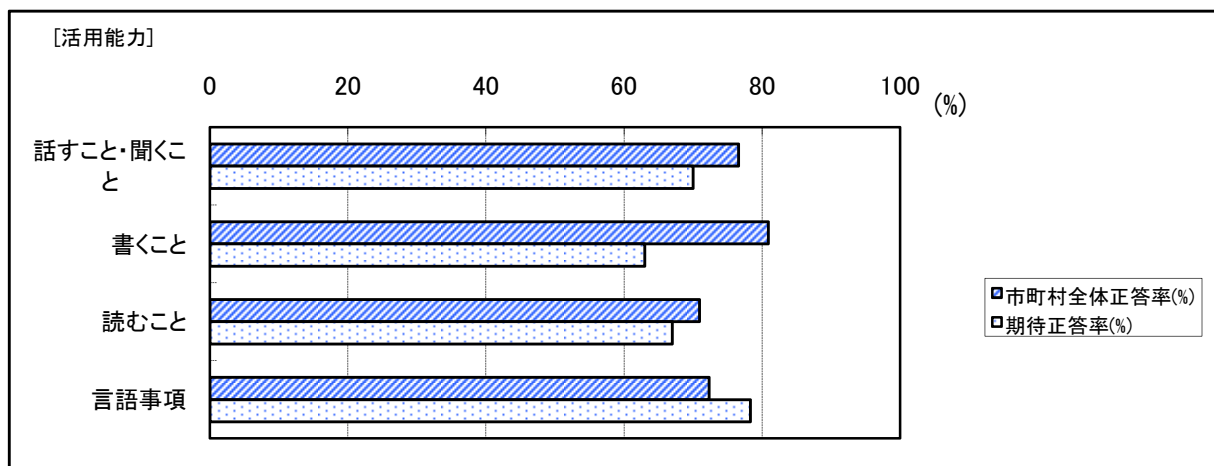


\* 町全体で正答率80%以上の生徒が37.2%を占めている一方で、正答率50%未満の生徒が5.9%存在する。

### (2) 領域別正答率

町内全体

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
市町村全体正答率(%)	76.6	80.9	70.9	72.3
期待正答率(%)	70.0	63.0	67.0	78.3
期待正答率との差	6.6	17.9	3.9	▲6.0



\* 国語での正答率が期待正答率を上回っているのは、書く領域が大きく上回り国語全体を押し上げたことによる。

#### ①話すこと・聞くことの領域

期待正答率70.0%に対して76.6%の正答率で6.6ポイント上回っている。聞く話す領域は、大問1であり、全ての小問で期待正答率を上回るか期待正答率に近い正答率であった。

特に話の内容を正確に聞き取る小問(1)(3)は期待正答率を10ポイント以上上回っている。しかし小問(4)で、話題をきちんと捉えて自分の考えをまとめる記述問題では、司会者の立場をふまえないで反対の意見を述べている生徒が13.5%と誤答が多かった。また、丁寧でない言葉使いや内容が曖昧な場合のため12.4%が準正答になっていた。

この出題のねらいは、話の内容を正確に聞き取り、話題に沿って主体的な話し合いに参加することである。

#### ②書くことの領域

期待正答率63.0%に対して、町の正答率は80.9%で17.9ポイントと大きく上回っている。書く領域での問題は、主に大問8の作文問題に集約されている。

条件指定として、3段落構成、字数制限(141字～180字)、内容として「共通点」を第一段落に第二第三段落に「相違点」を挙げているが、町ではすべての項目に於いて、正答率が期待正答率を15%～25%と大きく上回っている。第二第三段落で、二つ目の違う点を対比させて書くことが完全にクリアできていない生徒が28.8%(準正答)いたが、期待正答率を13.0%上回っており概ね良好な状態にあると言える。

#### ③読むことの領域

読む領域での問題は、大問5・6・7で、説明文、文学作品、新聞記事を読み取る問題であった。期待正答率67.0%に対して正答率は70.9%で3.9ポイント上回った。文学作品で主題を押さえ、登場人物の心情を汲みながら読むことについては良好な状況にある。しかし説明文での文章の構成や新聞記事での見出しを作る記述問題では、期待正答率を若干下回っており課題がある。

読解問題では、文章の筋道をつかみ、どのようなテーマを中心に話が展開しているのかを理解するのが大きなポイントとなる。

新聞の見出しを作る設問は、全体内容の大筋を掴んで、何が・いつ・どこで・どうしたかを的確に伝えられるよう表現できる力の育成をねらっている。

#### ④言語事項

期待正答率78.3%に対して正答率72.3%と6.0ポイント下回った。

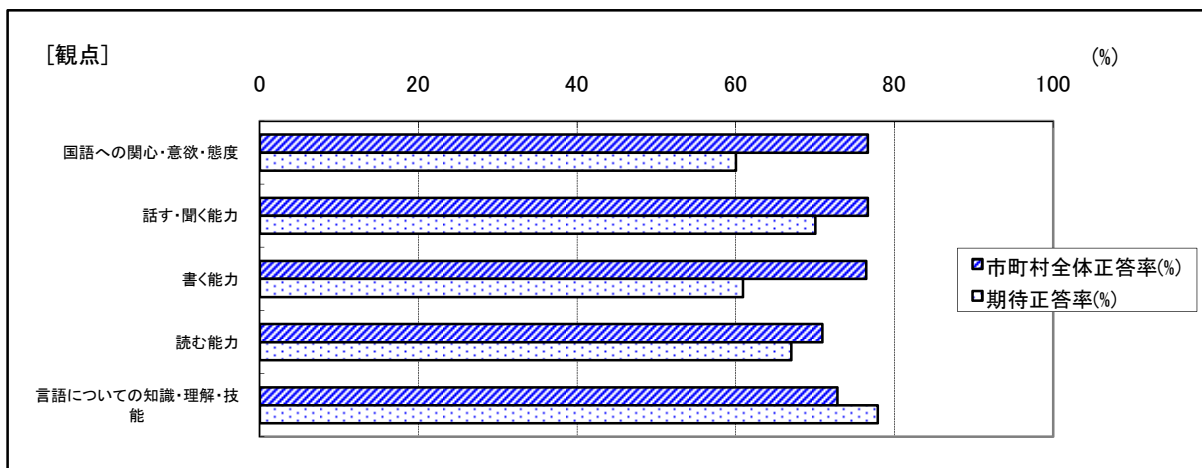
大問3と4の文法・語句に関する知識問題では、正答率が軒並み期待正答率を下回った。特に大問3(1)の「きらきらと」が修飾する文節を選択する問題では、正答率が44.4%とすべての問題の中で最も低い結果になった。被修飾語として「星が」を選択した生徒が51.3%いたが、「きらきらと」(連用修飾語)は「星」(体言)を修飾しないことを押えたい。また大問4(2)の文の中の単語の個数を答える問題でも正答率は51.0%と低く、誤って文節に区切ってしまった生徒が25.4%に達した。

文法の指導にあたっては、「主語と述語の関係」「修飾語と被修飾語との関係」など、言葉がどのように結びついて文を作っているかを、正しいルールに基づいて判断できる力を養っていきたい。

### (3) 観点別正答率

町内全体

	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
市町村全体正答率(%)	76.6	76.6	76.4	70.9	72.8
期待正答率(%)	60.0	70.0	60.9	67.0	77.9
期待正答率との差	16.6	6.6	15.5	3.9	▲5.1



#### ① 国語への関心・意欲・態度

期待正答率60.0%に対して正答率76.6%と16.6ポイントと上回った。ペーパーテストによる国語科への関心・意欲・態度を評価することはかなり難しいが、小問ごとに主たる観点と従たる観点を設け関心・意欲での観点として大問1(4)と大問8を設定した。話し合いへの参加と日常生活に於ける題材を作文に書かせる問題である。

この観点に属する記述問題や作文問題では、すべての小問で70%を超える正答率となり、この観点の指導は一定の成果を挙げていると言えるだろう。ただ今回活用問題として導入した、話し合いで、テーマからそれた発言に対し、司会者として修正する内容を書く問題は期待正答率を少し上回る程度であった。

言葉で表現することに興味を持たせるためには、作文以外でも、日頃から生徒の発する言葉に対して、より効果的なまた説得力のある表現の仕方を指導していきたい。

#### ② 聞く話す能力

聞き取り問題で、すべての内容を書き取ることは不可能だが、流れをメモすることは出来る。話題の中心となるキーワードを聞き逃さないように指導していきたい。

自分の立場を明らかにして、相手に明確な理由を伝える力は定着できており、国語科指導要領での内容A(1)ア～ウは達成できていると思える。A(1)エについて、それぞれの発言を注意して聞いたり、自分の考えをまとめることに少し課題がある。

様々な話し合いや発表の場面を通して、相手の発言を書き留めたり、反対の理由をきちんと説明できる力を養うことは大事である。

### ③書く能力

国語科全体の正答率の項でも、領域別の項でも触れましたが、書く能力の期待正答率は60.9%で町全体の正答率は76.4%と大きく上回っている。

課題作文では、まずその出題の意図を理解し構想を練る。主題に沿った材料を自分の体験などから探し見つけ、書き出しておく。主題以外にも段落構成などの条件がある場合は、それも踏まえ文章の組み立てを考える。いざ書く際には正しい原稿用紙の使い方を考慮しつつ、明確な言葉で誰にでも伝わるように書く。書き終えたら、見直して誤字や脱字をチェックするほか、読み手の視点に立ち、題意に沿った納得のいく文章になっているかどうか確認する。以上の手順を、しっかりと押さえ、指導に臨むことが望まれる。

### ④読む能力

書く能力の期待正答率は67.0%に対し、町の正答率は70.9%と3.9ポイント上回っている。説明文と新聞記事については、今回新設した問題である。

説明文や論説文では、筆者の論理の進め方を正しく捉え、文章と文章、段落と段落のつながり方を見誤らないように、流れを整理しながら読み進める力を身につけさせたい。

### ⑤言語についての知識・理解・技能

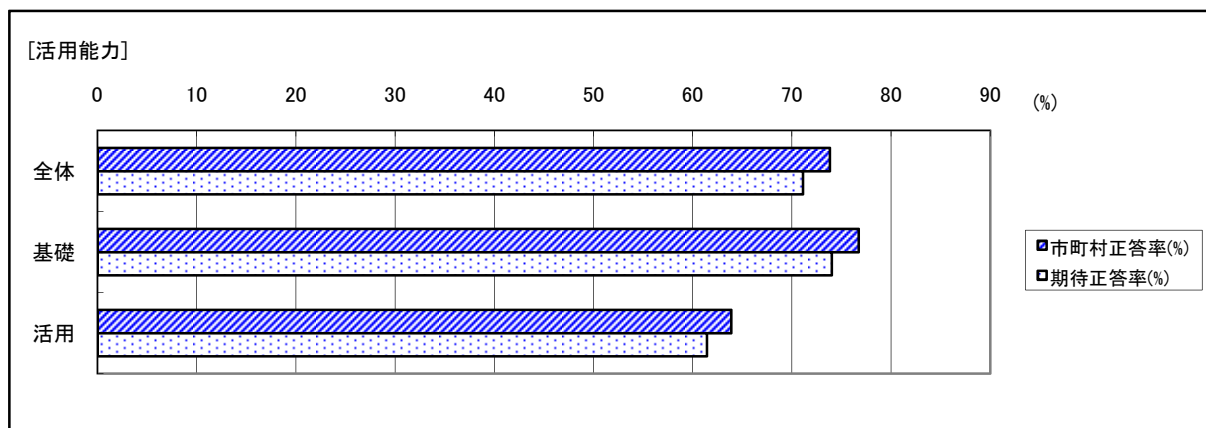
期待正答率77.9%に対して、町の正答率は72.8%と5.1ポイント言語に関する部門のみ下回っている。大問2の漢字の読み書きでは、読みは、すべての問題で正答率が9割前後と高かったが、書くは問題によって結果が分かれた。大問2(2)小学校で習った漢字「複雑」「砂糖」の正答率が50%台で期待正答率を大きく下回っているのは課題である。日常の漢字ドリル等で訓練することで達成できると判断されるので、意識して取り組ませると改善できると思われる。

漢字は、実際の文章の中で学ぶことも大切であるが、それだけでは複雑なものや似た漢字などは、誤って書いたり読んだりする恐れがある。間違いやすい漢字等は、その成り立ちや意味などに触れるなど、特化した指導も効果的だと思われる。

#### (4)基礎・活用別正答率

町内全体

	全体	基礎	活用
市町村正答率(%)	73.8	76.7	63.9
期待正答率(%)	71.1	74.0	61.4
期待正答率との差	2.7	2.7	2.5



活用観点として、今回から思考力・判断力・表現力を問う問題を設定した。インタビューの内容を書き言葉に直す問題や説明文の図式化、文の内容に合致した写真の選択などである。全国的な正答率や期待正答率と比較して、町全体の正答率は上回っており、基礎的基本的な内容を習得出来ている。その上での活用力を問う問題で、期待正答率を上回っているのは好ましい。

## ■ 中学校第2学年【数学】

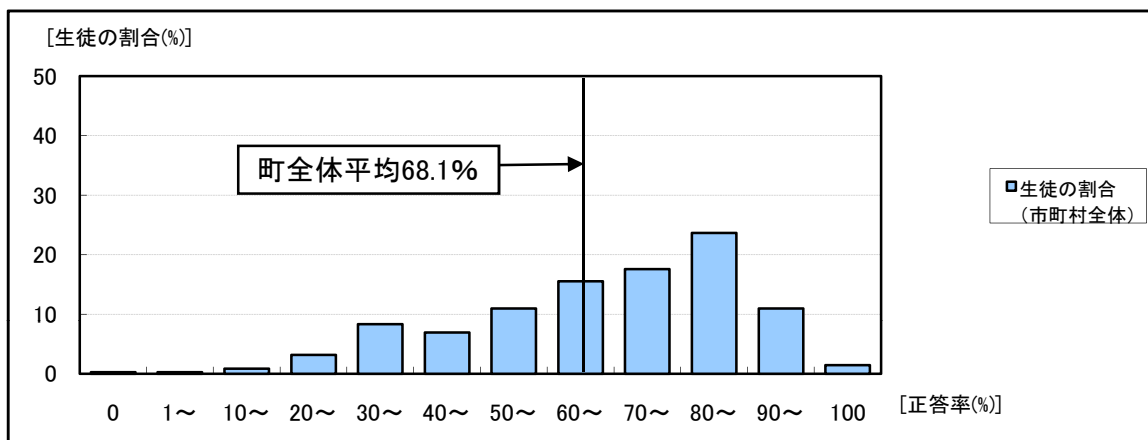
### (1) 数学の正答率

期待正答率	町全体
64.6%	68.1%

\* 中2数学の町全体の正答率は68.1%で、期待正答率を3.5ポイント上回っている。

#### 町内全体

正答率	0	1~	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	90~	100
生徒の割合 (市町村全体)	0.3	0.3	0.9	3.2	8.4	6.9	11.0	15.6	17.6	23.6	11.0	1.4

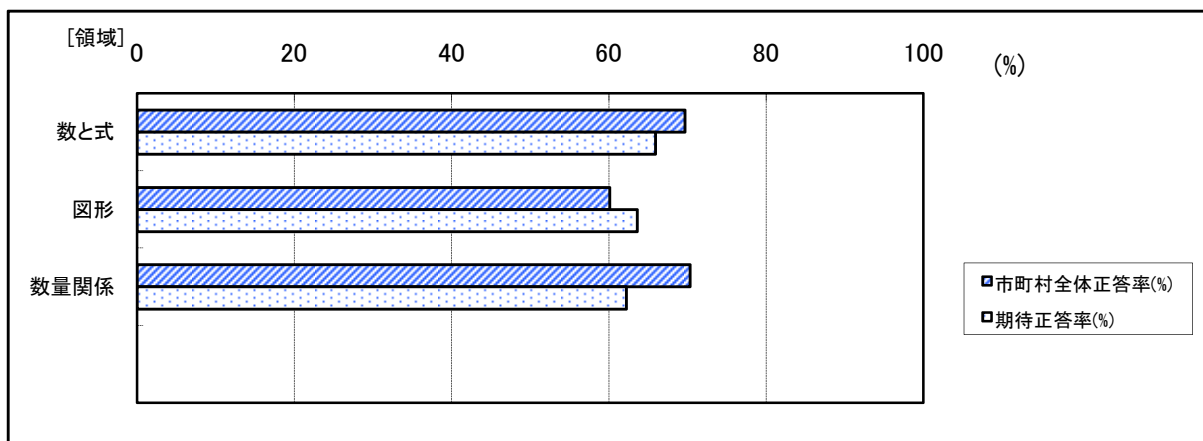


\* 町全体では、正答率70%以上の生徒が53.6%を占めている。一方、正答率50%未満の生徒が20.0%存在する。

### (2) 領域別正答率

#### 町内全体

	数と式	図形	数量関係		
市町村全体正答率(%)	69.7	60.1	70.3		
期待正答率(%)	65.9	63.6	62.2		
期待正答率との差	3.8	▲3.5	8.1		



\* 町全体正答率は「数と式」69.7%、「数量関係」70.3%と期待正答率を上回っているが、「図形」60.1%は3.5ポイント下回った。

①数と式

期待正答率65.9%に対して正答率は69.7%で3.8ポイント上回った。22問中13問で期待正答率を5ポイント以上上回っているが、移行措置で変更があった問題に対して、期待正答率を下回っている問題が多く見られる。特に記述式問題で正答率が低い問題(大問1(4)、大問6、大問8、大問10アイ)が多く、数学的な表現力が生徒に身につけていないと思われる。

②図形領域

期待正答率63.6%に対して正答率は60.1%で3.5ポイント下回った。大問12(1)正答率50.4%に対して、誤答である選択肢③を選んだ生徒が46.4%いた。これは対角線と間違っている生徒が多く、線対称の意味を理解できていない。また、大問15(2)正答率20.2%と低く、誤答である選択肢①36.9%、②12.7%、③28.0%と解答にバラつきがでた。これは球の体積の求め方を理解できていないことが起因する。

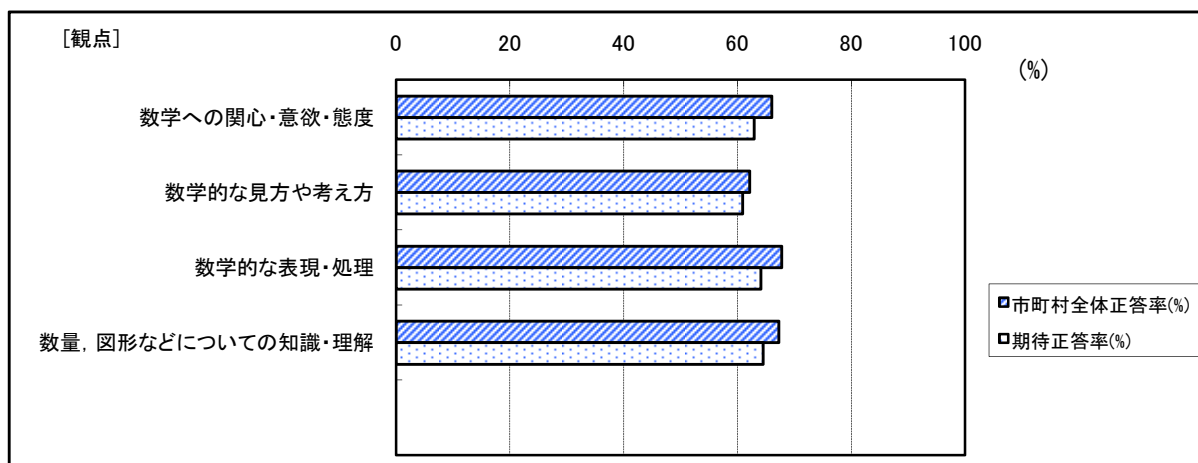
③数量関係

期待正答率62.2%に対して正答率は70.3%で8.1ポイント上回った。大問16(2)以外は期待正答率を大幅に上回った。大問16(2)はメジアンを求める問題であるが正答率が42.9%と期待正答率を7.1ポイント下回った。誤答で選択肢①を選んでいる生徒が35.2%いる。メジアン(中央値)の求め方を理解できていないと思われる。

(3) 観点別正答率

町内全体

	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な表現・処理	数量, 図形などについての知識・理解	
市町村全体正答率(%)	66.0	62.1	67.8	67.3	
期待正答率(%)	62.9	60.9	64.1	64.5	
期待正答率との差	3.1	1.2	3.7	2.8	



\* すべての観点で期待正答率を上回っていて良好である。



### ①数学への関心・意欲・態度

期待正答率62.9%に対して町の正答率は66.0%と3.1ポイント上回り、数学への関心・意欲・態度は高いと判断される。

ゲームを題材とした正負の数やポップコーンをつくる時間と重さを問う比例・反比例の問題は共に高い正答率だったが、大問10のケーキの個数と金額を求める1次方程式の応用では期待正答率を下回ってしまっている。ケーキの個数についての方程式でxが何を表すのか押さえておく必要がある。方程式をつくる際には何をxと置くのかを必ず書かせて明確にすることが大事である。

### ②数学的な見方や考え方

特に正答率の低かった問題を取り上げると、数と式領域で、大問10(ア)(イ)の正答率が59.7%、43.8%と期待正答率より、5.3ポイント、21.2ポイント大きく下回っている。これは方程式のxが何を表しているか理解できていないことに起因する。文字や解の意味を理解することと共に思考力をつけていく必要がある。

### ③数学的な表現・処理

数と式領域で、大問6の正答率40.1%と期待正答率より14.9ポイント大きく下回っている。大小関係を不等式に表すことができていない。大問8の正答率が54.2%と期待正答率より15.8ポイント大きく下回っている。比例式の解き方が理解できていない。

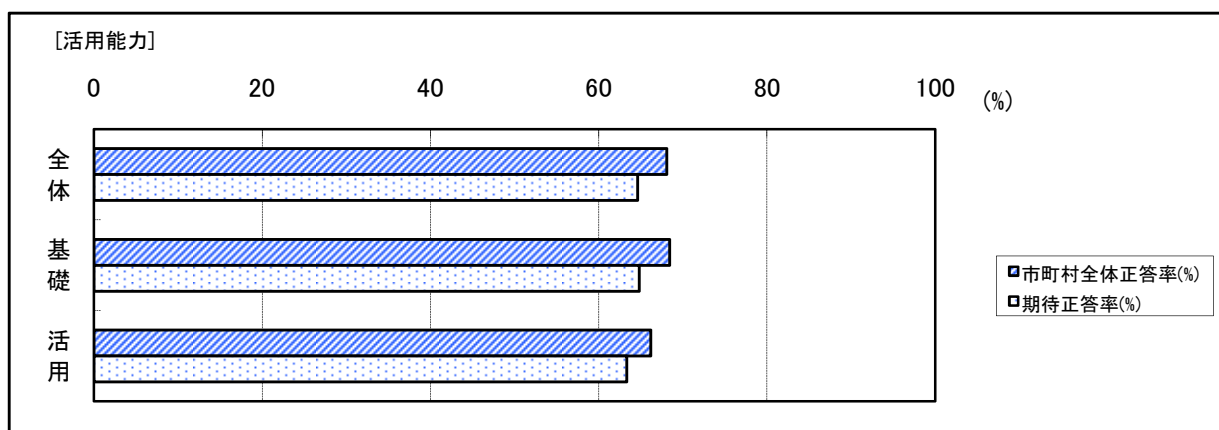
### ④数量・図形などについての知識・理解

数と式領域で、大問1(4)の正答率42.7%と期待正答率より7.3ポイント下回っている。絶対値についての理解ができていない。負の数の必要性を知り、正の数と負の数の意味と数の大きさの概念を理解する必要がある。“0”を忘れないことと、“以下&未満”の認識をする必要がある。

## (4) 基礎・活用別正答率

町内全体

	全体	基礎	活用
市町村全体正答率(%)	68.1	68.4	66.2
期待正答率(%)	64.6	64.8	63.3
期待正答率との差	3.5	3.6	2.9



\* 中2数学の町全体の正答率は68.1%で期待正答率を3.5ポイント上回っている。  
基礎・活用別の正答率でも期待正答率を上回った。

## ■ 中学校第2学年【英語[B]】

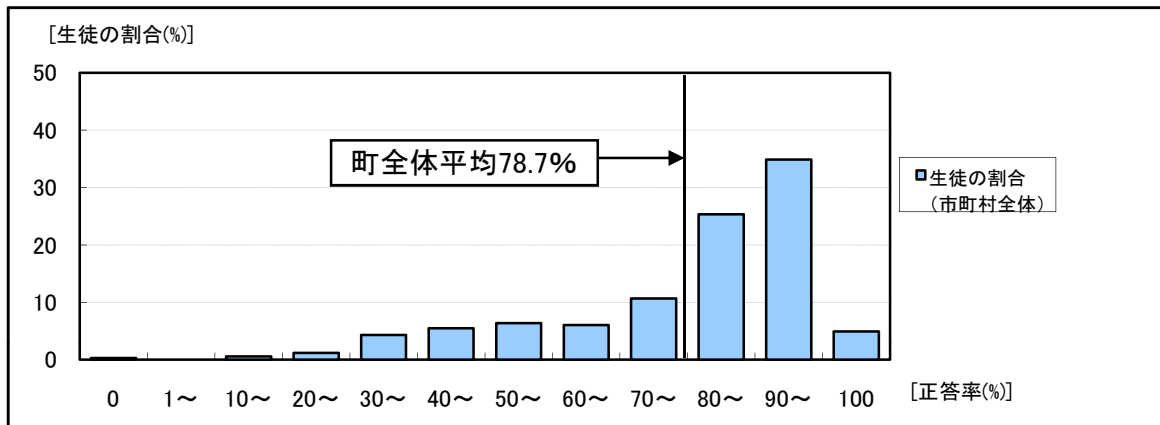
### (1) 英語の正答率

期待正答率	町全体
71.4%	78.7%

\* 中2英語の町全体の正答率は78.7%で、期待正答率を7.3ポイント上回っている。

#### 正答率度数分布

正答率	0	1～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～	100
生徒の割合 (市町村全体)	0.3	0.0	0.6	1.2	4.3	5.5	6.3	6.1	10.7	25.4	34.9	4.9

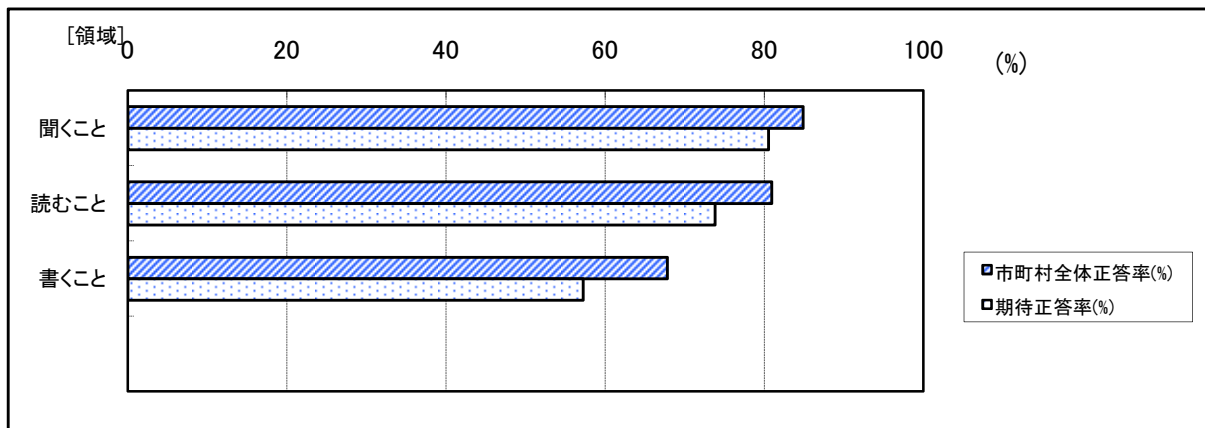


\* 町全体では、正答率80%以上の生徒が65.2%を占めている。一方、正答率50%未満の生徒が11.9%存在する。

### (2) 領域別正答率

町内全体

	聞くこと	読むこと	書くこと		
市町村全体正答率(%)	84.8	80.9	67.8		
期待正答率(%)	80.5	73.8	57.2		
期待正答率との差	4.3	7.1	10.6		



## 領域ごとの分析

### ①聞くこと

期待正答率80.5%に対して正答率は84.8%で、4.3ポイント上回った。

大問1は対話から適切なイラストを選択する問題、大問2は対話の内容に関する質問の答えを選択する問題、大問3は英文を聞き取りスケジュールをメモにまとめる問題である。大問3(1)(2)の正答率は、それぞれ58.5%、54.8%と低かったものの、どちらも期待正答率を上回った。

この領域の中では、昨年に引き続き、大問1(1)(2)の正答率が比較的低めであった。(1)の疑問詞疑問文の応答の問題では、前置詞onを聞き取れず、誤答である選択肢③を選んだ生徒が20.2%いた。また、(2)の時刻の聞き取り問題では、thirtyをthirteenと取り違える誤答が多く、13.5%の生徒がこれを選択した。

聞き取りの際には、必ずメモを取ることを意識させ、英文の中のキーワードに気付かせることが大切である。特に数詞に関しては、キーワードとなることが多く、大問1(2)のthirtyとthirteenのような聞き分けの難しいものが多い。積極的に音読を行い、発音やアクセントの違いに気付かせることが大切である。

### ②読むこと

期待正答率73.8%に対して正答率は80.9%で、7.1ポイント上回った。

各大問を平均正答率で見ると、大問4が89.8%、大問5が70.6%、大問6が82.2%であった。

大問4、大問6では、すべての小問が期待正答率を上回った。一方、大問5では、(2)と(5)が期待正答率を下回った。(2)で多かった誤答は、選択肢④の24.2%である。これは、対話の流れがきちんと把握出来ていなかったことと、( )の前にbe動詞があることから、現在進行形の文であると気付けなかったことに起因する。(5)では、質問文が現在進行形なので、答えも現在進行形でなければならないことに気付けなかった誤答が32.9%みられた。

英文を読むときは、文章の流れを把握するだけでなく、文法にも注意しながら読ませることが必要である。文法の知識をきちんと身につけさせるには、同じ文法が使われている例文をいくつか挙げ、その特徴を生徒に気付かせることで、各文法ごとの語順や単語の使われ方を理解させる、というように生徒に能動的な活動をさせる指導の工夫が必要である。

### ③書くこと

期待正答率57.2%に対して正答率は67.8%で、10.6ポイント上回った。

この領域の中では、大問8(1)で期待正答率を5ポイント以上下回ったが、他の小問では期待正答率を上回った。

条件英作文の大問8(1)では、誤答例としてanyをうまく使えていないものが多かった。any brothersなどの言い方については、正確な文法知識とともに、言い慣れることが必要である。

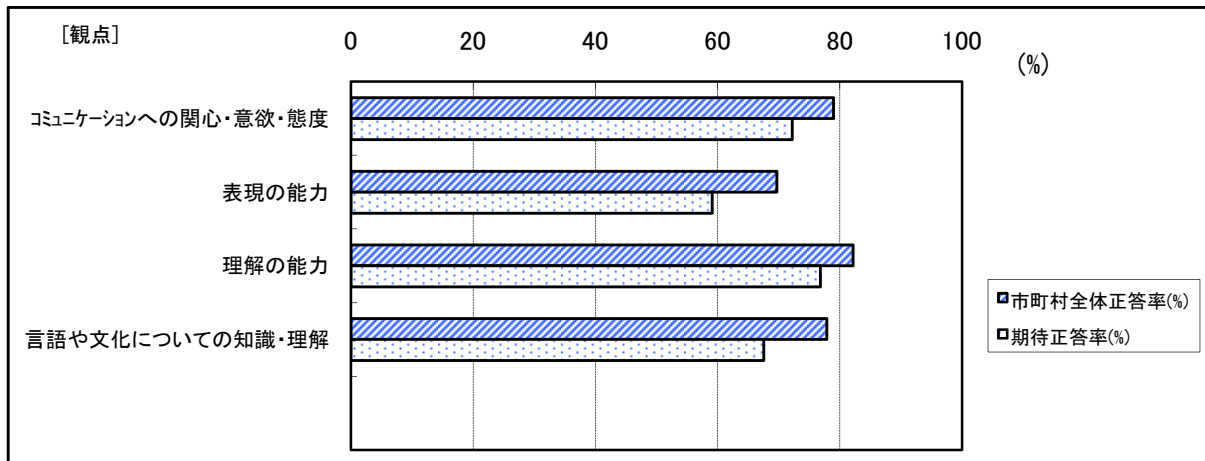
また、自由英作文の大問9では、canやwellを使ってまとまりのある英文、すなわち意味のつながりのある英文を書くことが求められており、I can play soccer well. I can play the piano well.のように独立した英文の羅列では高得点が得られないことを理解させたい。

話題を一つに絞り、具体的に書き足していく練習を積み重ねることが大切である。普段から授業の中で、書く活動を積極的に取り入れていきたい。

## (3) 観点別正答率

町内全体

	コミュニケーション への関心・ 意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化 についての 知識・理解	
市町村全体正答率(%)	79.0	69.7	82.1	77.8	
期待正答率(%)	72.2	59.1	76.8	67.5	
期待正答率との差	6.8	10.6	5.3	10.3	



## 観点ごとの分析

### ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度

この観点の問題を領域別に見ると、「聞くこと」の平均正答率が84.8%で、「読むこと」「書くこと」の平均正答率が69.2%であった。

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の一連の活動をリンクさせながら、さらに英語の表現力を養いたい。書くことによって文法上の未理解を発見でき、読むことによって発音上の細かい誤解を発見することができるため、以後の指導に反映させることができる。言語活動への取組においては、ただ説明をするのではなく、五感を使って体に染み込ませるような指導を行いたい。ALTとのチームティーチングなどを活用し、生徒が発言しやすい環境や雰囲気を作ることが大切である。

### ②表現の能力

期待正答率59.1%に対して正答率は69.7%で、10.6ポイント上回った。

無解答率は、大問5(5)で12.1%、大問8で11.0%と高くなっており、どちらの問題も条件英作文である。この無解答率の高さが、解答時間の不足に起因するものでないことは、大問9の自由英作文の無解答率が6.1%であることからわかる。大問9の自由英作文の書き出しが、自分の名前を書くことであったため、生徒は難しく感じられた大問8を飛ばして、大問9を先に解答したものと考えられる。

条件英作文は、与えられた指示を咀嚼し解答に結びつける力を必要とする。難しく解釈をする生徒も多いが、既習の表現を使って解答できることに気付かせたい。日頃の授業において、既習の表現を用いて英文を書く機会を多く設け、その際、日本語訳を与えて書かせるのではなく、条件を与えて生徒自らが日本語訳を考え解答するという指導を行いたい。

### ③理解の能力

期待正答率76.8%に対して正答率は82.1%で、5.3ポイント上回った。

この観点の小問25問中、期待正答率を下回ったのは4問であった。

特に正答率の低かった問題を取り上げると、領域ごとの分析でもふれた大問5(5)で、正答率は49.1%であった。他の問題に比べて正答率が低いのは、対話文の内容を十分に把握できていないためと考えられる。( )を埋める問題などは、全体の流れが掴めていなくても、前後の文脈から解答できるが、文章全体に関する問題に対応するには、やはり英文をきちんと読み、内容を把握することが大切である。読みの指導にあたっては、文章のおおまかな流れを把握し、ポイントを押さえた読み取りをさせることにより、文章の要旨を理解させることが大切である。

### ④言語や文化についての知識・理解

期待正答率67.5%に対して正答率は77.8%で、10.3ポイント上回った。

この観点の小問10問すべての正答率が、期待正答率を上回っている。

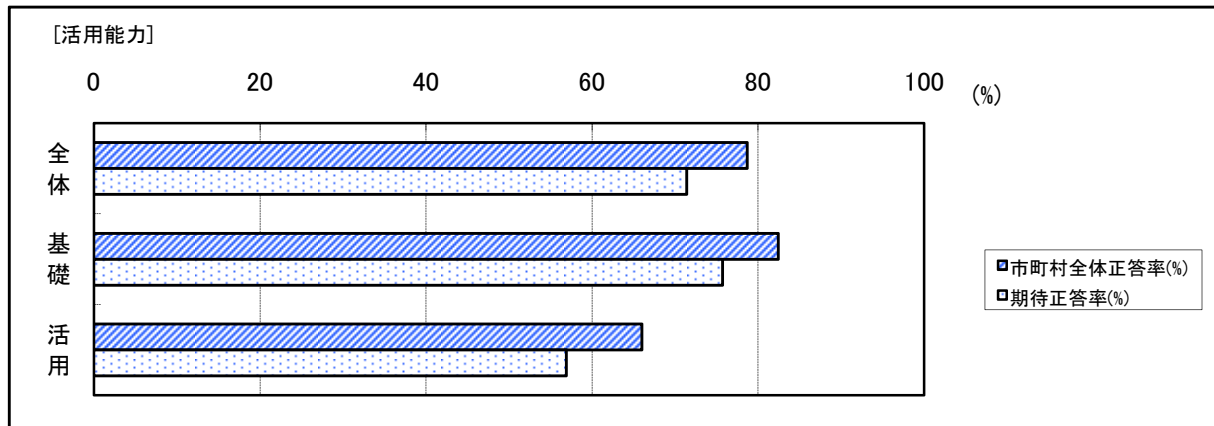
ただし、大問7の語句整序問題では、正答率にばらつきが見られた。教科書でよく出てくる過去形の否定文やHow manyを使った文は正答率が70%を超えているが、命令文、SVO+副詞句の語順は定着していないことがうかがえる。

さまざまな新しい文法事項を学習していく中で、学習時以降に教科書本文中で見られることの少ない文法事項は、知識として定着しにくい。既習内容の記憶が薄れていかにないように、定期的に既習の文法を取り込んだ文章を読ませたり、書かせることで、知識の定着を図っていきたい。

(4)基礎・活用別正答率

町内全体

	全体	基礎	活用
市町村全体正答率(%)	78.7	82.4	66.0
期待正答率(%)	71.4	75.7	56.9
期待正答率との差	7.3	6.7	9.1



○中2英語の町全体正答率は78.7%で、期待正答率を7.3ポイント上回っている。  
基礎・活用別の正答率でも期待正答率を大幅に上回った。